

岐阜県中山間農業研究所ニュース

2009年度 第1号

成功させよう!

本 所 〒509-4244 岐阜県飛騨市古川町是重2-6-56
TEL: 0577-73-2029 FAX: 0577-73-2751
E-mail: c24402@pref.gifu.lg.jp
中津川支所 〒509-9131 岐阜県中津川市千旦林鍛冶屋平643-1
TEL: 0573-68-2036 FAX: 0573-68-3116
E-mail: c24402@pref.gifu.lg.jp



— H21の中心的研究課題の紹介 —

平成24年に岐阜で行われるぎふ清流国体での「おもてなし」のため、「クリ「ぼろたん」」に関する研究、夏秋トマトの画期的な年2期作技術の進捗状況、また高温条件下で問題になっているハウレンソウの生理障害、芯枯れ症を解決する技術開発検討を始めました。この目玉と言うべき課題について紹介を行います。

● クリ新品種「ぼろたん」を使った新しい特産品を開発

美味しく、大きくて、加熱することで渋皮が簡単に剥けるクリ新品種「ぼろたん」（農研機構果樹研究所育成）の、加工法、加工品の開発ならびに高品質な果実を生産する技術の確立を目的とした研究です。

平成20年度は、一般消費者へ生栗を販売する場合を想定し、渋皮を剥皮する際の破裂防止に必要な鬼皮、渋皮への傷入れ方法を安全かつ簡易に行う道具の考案を、県内刃物業者の協力で行いました。

また、昨年11月に設立された「東美濃ぼろたん研究会」の協力で、家庭での簡単な調理法について検討を行いました。

本年度は、和菓子屋さんとの連携で、「ぼろたん」を使った新しい特産品の開発を進めます。

焼き栗



安全で簡単に傷を入れられる道具の検討



研究会における「ぼろたん」の簡単な調理方法の検討

● 2期作によるトマトの作期拡大

岐阜県の夏秋トマトは7月下旬から9月上旬の2ヶ月間に出荷が集中し、販売単価が上がらないとともに、作業の集中が経営規模拡大の足かせとなっています。

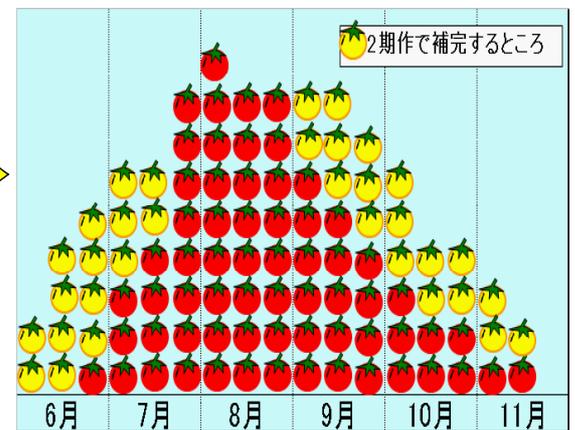
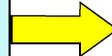
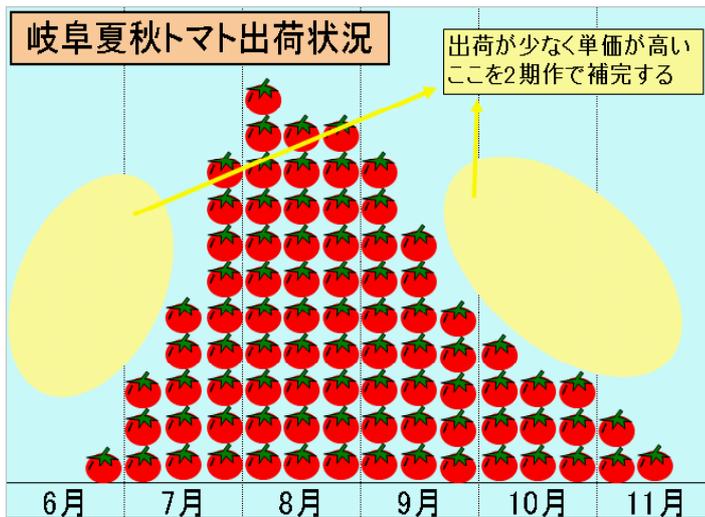
この対策として、通常の作型の前後に出荷を行うことのできる2期作の技術開発を行っています。

春作栽培では、水封マルチ（写真右）を利用することで、地温・気温を上昇させることで気温が低い時期の生育促進効果を調査します。

また秋作の研究は、保温方法の改良により秋季の果実着色促進を検討します。



水封マルチによる保温の様子



● 高温期のホウレンソウ生理障害発生抑制のための研究

飛騨地域では夏期冷涼な気候を活かし、夏どりホウレンソウが生産されています。しかし近年、新しい葉が枯れる原因不明の生理障害が夏の高温期を中心に増加傾向にあります。そこで、原因の究明と対策確立に向けた研究を開始しました。当面カルシウム欠乏症状ではないかという仮説を立て、芯枯れ症状の再現や症状軽減実験等を行います。



障害の発生したホウレンソウ



新しい葉の先端が枯れる症状